

てひたすら神さまへ心を向けているんだということ
を他人には気振^{けふ}りも見せず、「ただ」隠れた所にい
なさるお前さんの父さまによく見ていただくため
だ。見えない所でシツカリと見ておいでの父さまは
必ずお前さんの心に報いてくださる。」

二五・お膝元に宝を積み

参照 ルカ 12 33-34

「¹⁹ お前さんたちは土の上に宝を積むな。ここでは
虫が食ったり錆^{さび}がついたりするし、それに泥棒が
「土蔵^{どくらう}の」壁を破つて入りこみ、盗んだりもする。
²⁰ 宝は神さまのお膝^{ひざもと}元にセツセと積み続ける。あそ
こでは虫が食うことも錆がつくこともないし、それ
に泥棒が「土蔵の」壁を破つて入りこみ、盗み荒ら
すこともない。²¹ おのれの宝のある所におのれの心
もあるものだ。」

二六・気前のよさに輝く目玉

参照 ルカ 11 34-36

「²² ① 腹の太さと気前のよさに輝く目玉は体を照ら
す灯火^{ともしび}のようなものだ。腹の太さと気前のよさでお
前さんの目玉がキラキラ輝いていれば、頭から足の
先までお前さんの体も後光^{ごこう}がさして光り輝く。²³ 反
対に、吝嗇^{けち}のためにお前さんの目玉がドロンと暗く
曇つていれば、頭から足の先までお前さんの体も
真っ暗だ。そういうわけで、腹の太さも気前のよさ
もなくなつて、キラキラ輝く灯火がお前さんの中で
消えたなら、それはまたどんなに暗くて陰気だろう
か?」

二七・神さまと銭金

参照 ルカ 16 13

「²⁴ 誰でも、旦那^{だんな}を一人持つというわけには行かな
いものだ。片方を疎^{おろそ}かにして、片方はかりを大事

にしたり、片方にはかり近しくなつて、片方には
そつぽを向いたりするからだ。神さまとぜにかね銭金とどつ
ちも旦那だんなにするということは、とてもできかねるも
んだよ。」

二八・クヨクヨするな

参照 ルカ 12 22-32

「²⁵そつというわけだから、お前さんたちに言つてお
く。自分の命を繫つなごうと思つて、何を食おうか、何
を飲もうかとあくせく案じたり、自分の体を困なおう
と思つて、何を着ようかとクヨクヨ心配しているの
は止めておけ。食ひ物の有る無しよりも、まずは今
こうして生きて命のあることのほうがよほど有り難
いことではないのか？ 着る物の有る無しよりも、
まずは今こうして体のあることのほうがよほど有り
難いことではないのか？」

²⁶空の鳥をよく見る。種も蒔まかないし、^①稲刈り
もしないし、秋仕舞あきじまひもしない。それでも、天にいな

さるお前さんたちの父さまはあれらを養ととつていなさ
る。お前さんたちはあれらよりかはるかに勝まさつたもの
ではないのか？

²⁷お前さんたちのうちで誰が、いくらメソメソ氣
を揉もんだからといって、その身の丈たを一尺たりとも
伸ばせるものかね？

²⁸なぜ着物のことなどでそんなにクヨクヨ悩んで
いるんだ？ 野の百合がどのようにして育つていく
か、よく氣をつけて見てみるよ。特別苦勞するわけ
でもないし、糸を紡つむぐわけでもないぞ。²⁹それでも
な、言つておく。榮華の極みを尽くしたあのソロモ
ン王でさえ、この花の一つほどにも着飾かざつたわけ
ではなかった。³⁰今日は野にあつても、明日は竈かまど
くべられる草でさえ神さまはこんなにも美しく飾つ
てくださつていなさる。ましてお前さんたちのこと
はなおさらではないか？ な、そうだろう、心細く
てオロオロしているお前さんたち？

³¹だから、『何を食おうか？』、『何を飲もう
か？』、『何を着ようか？』などとウジウジ心配する

ものではない。³² そんなものは「神さまの心のかつていない」あの夷狄^{えびす}どものしがみつくものだ。天においで、お前さんたちの父^{とと}さまはこうした物がすべてお前さんたちには入り用だということをよくわかつていなさる。

³³ 何よりもまず、神さまのお取り仕切りに加わりたいもんだ、お心になつようになりたいもんだと、心からそう願ひ続ける。そうすれば、こんな物などは全部ついでに授けてくださる。

³⁴ だから、明日^{あした}のことでクヨクヨ気を揉^もむものではない。明日のことは明日が心配する。その日の苦勞は、その日だけでたくさんだ。」

●第七章

二九・人の善^よし悪^あしを言うな

参照 マルコ 4 24、25、ルカ 6 37、42

「お前さんたち、人の善^よし悪^あしをあげつらつているのはやめる。そうすれば、お前さんたちも善し悪しを言われないうすむ。² お前さんたちは自分が振りかざすその善し悪しの目盛で自分もまた善し悪しを測られ、自分が他人を測つたその物差を今度は我が身に当てられる。

³ 弟の目玉の中にある大鋸屑^{おがくず}は見えているのに、自分の目玉の中の丸太にはトンと気がつかないままなのはどうしたわけだ？ ⁴ 弟に向かつて、『お前の目玉の中にある大鋸屑を俺に取らせろやい』などと、どの面下^{つら}げて言えるものかね？ 自分の目玉には丸太が入っているではないか。

⁵ 御立派ぶりの大根役者殿、まず、お前さんの目

野の百合を見よ

(マタイ福音書六章二四—二四節)

私たちは、ただ粘土の床を持つだけの、私たちの小さな礼拝堂に居た。きょう、私たちは、数日を私たちの島で過ごしている詩人のホセ・コロネル・ウルテチョと、パブロ・アントーニオ・クアドラの訪問を受けた。同様に私たちの友人サムエル(ごく最近、金融業者に転身した画家)と、ニューヨークでインター・アメリカ開発銀行(B・I・D)の副総裁の席を占めている南アメリカのサムエルの知人が、ほんの数時間、スポーツ用飛行機でマナグアから、私たちのもとに飛来して来ていた。この日曜日の福音書は野の百合を扱っている。

誰も二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで、他方を愛するか、あるいは一方に忠実に従い、他方を軽蔑するかである。あなた方は、神と金銭の両者に仕えることはできない。

レベーカー お金は人を無慈悲で利己的にするし、私たちが愛することを妨げるわ。

若いグロリア お金は人間たちを孤立させるのよ。金銭への愛は、人間を隣人たちから引き離し

てしまふのよ。明らかなことだわ。

中年の農夫ホセ・エスピノーサ。——金への愛着はまた人間を傲慢にもする。人間というものは、他の者より何か優れたものでありたいと思っているものだが、まさに同じ理由から、人間は階級に分けられているんだ。

私は尋ねた。——それでは、この聖書の章節によれば、人は裕福であつて、同時にキリスト教徒たることはできないんだらうか？

若いラウレアノがラディカルな答えをした。——できない。この箇所では、金持たちは完全に批判されている。

トマス老人が非常に慎重に。——実際、そんなふうに思われますだ。イエスさまがこのように話されたとき、イエスさまは、同時にその両者であることはできねえと考へてらしただ。

ドン・チョーン 僕もそう思う。イエスは金持たちを批判している。そうだ、僕たちは多くを与えることはできない。なぜなら、僕たち自身だって、ほとんど充分には持っていないんだから。そして僕たちが他人に何かを差し出したとしても、それはほんとに僅かなものでしかあり得ない。なぜなら、それ以上はもう無いんだから。だけど、金持は充分に持っている。

裕福な人々が攻撃されると（彼自身は他の皆とまったく同じように貧しいにもかかわらず）、しばしば裕福な人々を弁護するフェリクス。——ここには「金銭に仕える」と書かれているんであつて、「裕福な」とは書かれていない。金銭に仕えるのではなくて、それを良いことをするために利用する金持

だつて居るさ。——もちろん、少数だけれど。

船頭せんとうのコスメ・カナラス そしたら、その人たちはもう金持ではないだろう。彼らは金持だったが、今はもう貧乏だ。なぜなら、彼らは自分たちの金を隣人に仕えるために、使ってしまったんだから。

オリーヴィア もし彼らがもうお金持でなくなったら、彼らは救われたんです。

オスカール そこで、僕は次のように考えるんだけど。つまり、自分の金を他人を助けるために使った人は、きっとキリスト教徒たり得るだろう。だが、貯めこむ一方なら、キリスト教徒たることはできない。金そのものは決して悪ではなくて、もし有益なことに利用するならば、それは有用なものだ。たとえ、金がただ、金というだけではなんの価値も持っていないのはもちろんだとしても。金が資本として蓄積されたとしたら、神にとっては何程の価値もない。だが、それが何か有益なことに使われれば、神にとっても価値のあることなんだ。

私。——福音書には、「金銭に仕える……」と言われてっているね。

オスカールが続けた。——僕は、こう言うことによつてイエスは、お金を貯め込んで、増やして、資本を増大させることを意味させたんだと思う。

ラウレアノ まったくその通りのことを、金持たちがしているじゃないか。ただ自分の金を撒き散らしていたら、彼らだつて貧しくなってしまうんだろうから、そんな金持は居やしない。

グローリア 一番良いことは、お金持なんかが、まったく居なくなることなのよ。

エドアルド（オスカルに向かつて）。——今、君はそう言うよね。だけど君が実際、金を持っていたとしたら、きみだって、もっと欲しいと思うだろう。そしてもっと持ったら、さらにもっともつと思うんだ……

オスカル 金を持っていたって、にもかかわらず善良な人たち、つまり、人がよく言う献身的な人間ていうのは居るよ。いずれにしても、自分たちがいらなくなったものを差し出すだけの人間じゃない、彼らはキリスト教徒なんだ。

マリータ 私は、金銭への愛情に支配されていたら、キリスト教徒じゃないと思うわ。だけど、お金というものをそれ程重大なものだと思わなければ、その人もキリスト教徒なんです。この文章が言っていることは、人は二人の主人に仕えることはできないということでしょう。百万長者が皆、キリスト教徒だったこともあり得るのね。ただそれは、彼らが自分のお金をできる限り分かち与えた場合だけなんだけれど。なぜなら、その人たちの心は、お金に縛られていないわけでしょう。

ウィリアム 金銭に仕えるってことの意味は、金銭を愛するってことなんだ。そしてキリストは、神と金銭との双方を同時に愛することはできない、と言ったんだ。なぜなら、神は愛であり、金銭に対する愛は利己主義^{エゴイズム}だからだ。

フェリクス そのようにイエスは金持たちだけを斥けたんではなくて、金持になりたいと思ひ、ただ金のことだけを考へている人間を、たとえ、その人間がまったく貧しかったとしても、非としたんだ。

——もちろんだ。

——お金持も、お金持になりたいと思う貧しい人々も居なくなった日に、その日には、すべての人間が神に仕えるんですのね——とアンジェラ夫人が付け加えた。

私は言った。——イエスがこの箇所です「お金」という表現に用いたのは、アラム語の《マンモン》なんだね。マンモンというのは富の神、つまり偶像なんだ。これによってイエスは私たちに、富への愛は一種の偶像崇拜だと教えている。

詩人のパブロ・アントーニオ・クアドラが言った。——ギリシア人たちだって、金を神として崇め、その神をプルトーンと名づけている。この偶像崇拜は、金というものが発明されてから生じたものなんだと僕は思う。しかし、今日だって、金の神は以前にも増して、神なんだ。

詩人のホセ・コロネル・ウルテチョ。——そして銀行はその金の神の神殿なんだ。……それから彼はインター・アメリカ開発銀行の副総裁の方に向き直って、付け加えた。——銀行の建築様式ってのは、つねに私の注意を惹いてやまないんですが、つまり、あれは神殿の建築様式に似ていますね。

副総裁 イエスの言葉は当時の経済秩序との関連内に限って、理解されなければならないんじゃないやありませんか？ 恐らく、ここではある種の奴隷制度が問題になっているのであって、だからこそイエスも、ご自分をよりよく理解させるために、二人の主人についても話しているんです。

コロネル・ウルテチョ しかし、私たちが金銭の支配下にある限り、たとえ今日では主人と奴隷の関係が名を変えていても、今もって奴隷制度の中に生きていることに変わりはないんです。奴隷制度

は今日では、資本主義的な規模で存在しているんです。しかもそれゆえにこそ、奴隷状態は遙かに巨大で広汎なものになっています。私は金というものを、人間の手から手へ渡って行く最限のない長い鎖だと思っています。その鎖はすべての人間の首に巻きつき、あなたもご存知のように、最後にすべての金が行きつくことになっているウォール街に至って、ようやく終わるんです。ポケットに入っているペソ（幸せなことに私は、只今は一文無しですが）は、実際には誰の持ち物でもない。つまり金は、ウォール街の物だと言うことなんです。恐らく、自分はこのお金（ペソ）をきれいに稼いだんだから、これは自分のものであると考える人も居るでしょう。しかしそのお金（ペソ）は手から手へと渡って、最後にはウォール街に達するんです。それはこの地、ソレンチナーメの革命的なキリスト教徒たちの目の前で行われているのと、まったく同じなんです。金に仕えるということは、奴隷状態に仕えるということとで、それに反対する主人に仕えるということが、自由であることを意味しているんです。

オスカー　つまり、山ほどの金を持っている人間は、愛することができないってことは明らかなんだ。

ウィリアム　人間というものは、愛しながら同時に利己的であることができないからこそ、神と金とは相容れ（あひい）ないものなんだ。

フェリペ　隣人に奉仕しようと思っている人間は、金のことはあまり思い煩（わづら）わないものだってことも、はっきりしている。そして金に興味を持っている男は、とくに隣人に仕えたいなんて考えやしない。だから聖書では、一方を愛し、他方を輕蔑（けいめつ）すると言われているんだ。一言で言ってしまうと、金

錢への愛は隣人への愛とは両立しないということなんです。

だから私はあなた方に言う。「生命いのちのために何を食い、何を飲もうか、また身体からだのために何を着ようかなどと心配することはない。生命は食物より価値があり、身体からだは衣服よりも大切なものではないか？ 空の鳥を見よ。彼らは種たねを播まかず、刈り入れも倉に納めることもしない。だがあなた方の天なる父は、鳥たちを養やしなっておいでになる。あなたたちはその鳥よりも遙かに価値あるものではないのか？ どんなに思い煩わづらったところで、あなたたちのうちの誰が、自分の身の丈たけを半メートルとて伸ばすことができるだろうか？

アダーン イエスは、僕たちに鳥たちを見なさいと言っておられる。いずれにしても、僕たちが鳥たちから学びとることができるのは、彼らは搾取をしないということなんだ。鳥たちは社会階級も知らなければ、金持も貧乏人も居ない。

フュリオ・マイレーナ そして同時に僕たちは、自分の将来を心配しないということを学ぶべきなんだ。イエスは、僕たちが鳥たちのように、自由に暢気に暮らすことを望まれておいでになるんだ。鳥たちは刈り入れに煩わづらわされることもないし、あとどれだけ、われわれの収穫量を増やさなければならぬとか、僕たちが生産したり、製造したりしているすべてのものに対する心配もない。動物に過ぎない鳥たちが心配しないならば、僕たちは神の子なんだから、そんなことを心配したりする理由は

遙かに少ないはずなのに。

礼拝堂の側面にある扉と二つの窓を通して、湖の北部が見晴かせ、反対側のもうひとつの扉と二つの窓からは、湖の南の部分が見渡せた。まだ壁で塞がれていず、開いたままになっている前面からは、樹木の多い青々とした草原が見えていた。

私は言った。——イエスは私たちを、私たちの四方を取り囲んでいる自然に招いて下さって、自然がどんなに糧^{かて}によってあふれるばかりであるかということ、よく見るようにして下さった。水の中の魚、岸辺の鷺、樹木に止まっている大蜥蜴^{ももげ}、雀たちや草たち、——すべての生きとし生ける者が十分に糧^{かて}を得て、またそれらのものも、他の物の糧として役立っている。多くの人間にとって、これらは自然の盲目的な力以外の何物でもない。しかし、キリストは私たちに、私たち全員のことを心配して下さる大きな愛が存在することに、目を開かせて下さろうとしたんだ。

向う側の岸辺の、グァダルペの谷から来てくれたひとりの女性が言った。——それなら、私も九人の子供の母親として、いつだってこういう信頼感をもって暮して来たことを、申し上げなくちゃなりません。私たちにお金があった試しはありませんが、また、どうしても必要なものがなかったことも一度もないんです。いつだってどういうふうにか、すべてがちゃんと連がって行くんです。私は福音書のこの部分を一度も聞いたことはありませんが、私には、それがまるで、私たちの毎日の生活のことを問題にしているように、よく知っている言葉のように聞こえるんです。

レベーカー 神さまはいつも奇蹟をおこされるのね。

チーカ夫人 この福音は、困難な問題を抱えている人々に、貧しい人々に向けられているんですね。フェリペ ただ僕はこの福音が貧しい人たちを一層、疎外してしまうんじゃないかと、疑問に思いました。たとえば僕が、子供たちを連れて市場に坐っているお婆さんの所に行つて、彼女の野菜畑から、ほんの一握りの野菜を持つて来て売ろうとしている彼女に、「お婆さん、心配するなよ。もし、あんたが堅い信仰を持っていたら、多分、あすはあんたの玉葱は売れるだろう」と言つたら……

グスターヴオ そんなことが言われているんじゃないんだよ。君がその女の所へ行つて、彼女に「ついて来い。一緒に、この体制を変える何かを考えてみよう」と言つたとするね。すると彼女は君に答えるだろう。「とんでもない。そんなわけに行くもんかね。わたしやあ、ここに玉葱を二、三個植えて、それを売んなきゃなんねえ」つて。すると君は、恐らくこんなことを言うだろう。「じゃあ、きつと、あんたの玉葱の方が、全世界の変革より重要なんだろうか？」と。違うか？ そうだろう？ むしろこう言わなくてはいけないんだよ。「あんたの玉葱のことなんか心配しなさんな。そんなもの、われわれはどうにしてでも手に入れるさ。まず、われわれは目下の状態の変革のために、闘わなくちゃならないんだ」と。解るか？ この大体の相違が。当たっているだろう？

フェリペ うん、その意味ではね。その通りだ。

アレファンドロ 僕は自分が奇蹟や、その他すべてのことを信じているかどうか解らないんだけど、もし、福音書が僕たちにこんな暢気さを要求しているとしたら、むしろそれによる社会的変革のことが言われているんじゃないのかな。僕たちはただ坐り込んで、奇蹟を待ちなさいっていうことに

ならないだろうか。泥棒は、自分の家族が飢えに苦しんでいるからという、唯一の理由で盗むんだ。そして金持は、どうやって自分の金を一番効果的に投資しようか、ということばかり考えている。双方ともに、自分たちの心配ごとを抱えているというわけだ。僕は、他の社会体制であれば、貧乏人の悩みも金持の悩みも存在する必要があると思っっている。僕はもう、自分が職を失うんじゃないかと、他人よりも持つてゐる物が少ないとか、病気になるんじゃないかと、歳をとったら、何によって生きて行こうか、なんてことは心配しないんだよ。他の体制下では、すべての人が、生活に不可欠な物を手に入れるようになるだろうし、誰もそれを奪うことはできないんだ。人は安心して働き、あるいは学び、あるいはその両方をする。しかも夜も昼も、頭を悩まさなければならぬこともなくね。ちょうど、空を飛ぶ鳥のようにさ。

グスターヴォ　きつと長い道のりだろうけど、その体制に至るまでの途上でも、こんなふうな暢氣さがこれまで以上に必要だろうな。なぜなら、他の人々のために働く時には、恐らくどんな支持も得られないこともあるし、確かな頼みもなく、次の一步を踏み出す自信がなくなることだってある。このためには、イエスが話しておいでになるこのような信頼感が必要なんだ。そうしないと、すべてを諦めてしまつて、個人的な興味や利己的な心配ごとに戻りついてしまうことになる。これとまったく同じことが、ブルジョワジーに起きているんだ。ブルジョワジーの心配ごとと言つたら、馬鹿馬鹿しいものなんだ。なぜなら、大きくなりたいと思ふこの半メートルの例のように、非現実的だからだ。彼らはただ非現実的だけでなく、無意味でもあるんだ。なぜなら、人が他人より半メートル大き

くなったからと言って、一体どうだというんだらう？

そしてなぜ、あなた方は衣服のことを心配するのか？ 野の百合がどのようにに育つかを見よ。労働もせず、紡ぐこともない。私はあなた方に言う。ソロモンはその栄華の極み（ひともと）においてさえ、この一本の百合ほどにも装ったことはなかった。きょうは立っているが、あすは刈り取られてしまいう草でさえ、神はこのような装わせて下さる。ましてや、神があなた方のためになさることは？ あなた方、信仰のうすい者たちよ。

青年たちのうちのひとり。——今、持っているものを身に着ければいいんだ。そして流行なんかで頭を悩ましてはいけない。イエスは、それを言おうとなさったんだ、と僕は思う。

青年たちの他のひとり（ラウレアノ）。——しかし、まあまあものを着ていたんじや、女の子たちが興味を持ってくれなくなる。

娘たちがぐくすくす笑い、お互い同志で囁き合う。

するとグローリアが言った。——王の富でさえ、イエスさまにはまったく何の印象も与えなかったことが、ここで解るでしょう。このソロモン王は、とても美しい衣裳を持っていたんだけれど、そんなすべての豪華さよりも、素朴な一本のお花の方を好まれたんです。

アレクサンダー 新しい社会体制が来たら、僕たちはソロモンよりもよいものを着ることになるだ

ろう。つまり、単純で美しいということです。なぜなら、こんな大層な豪華さってのは実際、僕たちにはまったく気に入るものではないし、エレガントな洋服を着てゐるからといって、素敵だとも思わないからね。

オリヴィア 草や花は美しいけれど儚い^{はかな}わね。それに対して、人間たちには永遠の生命が定められている。まさにそれゆえに、すべての物質的なものが大切なんです。ラウレアノが言ったように、衣服だってね。だけどこのような物のことばかり心配しているってことは、正しく神の御国を信じていないってことを意味するのよ。キリストは私たちに、紡^紡いではならない、刈り入れてはならないとおっしゃらなかった……ただ私たちはそれを私たちのためばかりでなく、皆のためにすべきなんです。フェリオ 「花と鳥を見よ」とイエスは言われた。つまり、人間は多くの間違つた観念を抱きやういんだ。なぜなら、人間は物質界のことに正しく注意していないからなんだ。

だから何を食^たべ、何を飲み、何を着ようか？ と言って心配をするな！ それらはすべて、異教徒たちが熱望していることである。あなたたちには、あなたたちがそれらすべてを必要としてゐるのをご存知の、天なる父が居る。

私は言った。——キリストが話しておいになるこの異教徒たちが、非常に宗教的な人間だつたつてことを忘れてはいけなね。彼らの宗教性はただ雨乞いをするとか、豊かな実りを祈る、あるいは

良い収穫を願うということだけにあった。私たちの国に土俗的な信仰があるのとまったく同じで、それと余り変わらないんだね。キリストがここでおっしゃりたかったことは、このような事柄をお願いするためには宗教なんか要らない。なぜなら天の父はいずれにしても、私たちに必要なものをご存知だから、ということだと私は思う。

ウィリアム 福音書の他の箇所で、イエスは、神は義の人の上にも不義の人のうえにもひとしく雨を降らせて下さる、と言っておいでだ。キリストは祈る人のうえにも、祈らぬ人の上にも、雨を降らせて下さる、と言っている。と言った方がより正しいだろう。宇宙を支配する愛が存在する、このことを知っておくのが非常に大切なんだ。

マルセリーノ ここでは働かなくてもよい、ということが論じられているのではなくて、心配をするな、ということが問題になっているんだね。植物たちだって、地中から水分を吸収して育つということによって、働いている。彼らは眠ることもない。こんなふうに俺たちは、たとえば野で働いている花に従うべきなんだ。あるいは活動している唐もろこしでもいい。俺たちが種を播いた唐もろこしは、「私は育ちたくない、出来たら何もしたくはない」とは言わない。

フランシスコ 貧乏人たちの間にも多くの利己主義がある。僕は、僕らが利己的だから、貧しいんだと思うくらいだ。

ホセ・エスピノーサ 違う、利己的なのは搾取者たちなんだ。僕たちは働いているにもかかわらず、貧しいんだ。たとえば僕は一枚の畑に米を植えた。そして収穫は良かった。だが、値段が悪い。サン

・カルロス業者たちは、僕たちが売るすべてのものの値段を固定した。僕たちが買うもの、すべてに對してもだ。

バブロ・アントーニオ　そしてその業者たちに對しては、再び他の者たちが値段を指定する。これは永遠の鎖……

マヌエル　僕の所では、一ヘクタール分の米を植えた。それに對して、値段がたったの半ヘクタール分にしかつて貰えなかった。それは、僕たちが働かなかったからではない。僕たちは過酷な労働をしたんだ。あくせく働いても働いても、それは何にもならない、いつまでたっても無なんだ。

フェリクス　僕たちは神の意志に従わなければならない。米は、僕たちに僅かの利益しかもたらさない。つまり、僕たちが僅かなものしか持たないように、という神のご意志なんだ。サン・カルロスで僕たちは良い値を払ってもらえなかった。それは、僕たちが貧しくあるように、という神のご意志なんだ。

ホセ・エスピノーサ　違ひ、神の意志は、僕たちが闘うことなんだ。

マルセリーノ　この次には、俺たちはまず、神の国とその正義を求めるべきだという箇所が来る。

開発銀行の男　私はたくさんのお金を持っている、外国の銀行の副総裁です。皆さんのおっしゃるすべてのことを、多大の関心をもって伺いました。福音書に従って、私の銀行はその金をどのようにしなければならぬとお考えになりますか？

マルセリーノ　もちろん、分配してしまふことだ。

副総裁 分配してしまおう？ そう言うのは簡単です。しかし、そうしてしまったら、貸付けを必要とする人々のための金が無くなってしまいますね。

マルセリーノ 金は正しく分配されなければならない。最初に与えておきながら、後で再び取り戻すなんてことがあってはならないんだ。金を持っているすべての人は、その中から幾らか喜捨することができる。だが、彼らは権力を持っているから、再び取り戻すことができるんだ。彼らは、自分たちが与えたもの以上のものを戻してくれるように要求し、その結果、最後に貧乏人は、彼らが以前そうであった以上に貧しくなるんだ。しかし、金持たちが、ただ与えるだけであれば、そして再び取り戻そうとしなければ、もう貧乏人は居なくなる。

詩人のバブロ・アントーニオ・クアドラが言った。——私たちを惑わさないで下さいよ。ここでソレンチナーメの農民の口を通して話しているのは、キリストなんです。この「野の百合を見よ」の一節は、非常に農民的な語り口で語られている。私は、キリストは野の真中にお立ちになって、きっと今の私たちのように湖のそばにお立ちになって、この言葉を言われたんだと想像しています。そしてイエスは、ここでソレンチナーメの農民たちと非常に似かよった経済的な問題を抱えていた農民たちの方に、身を向けたんです。キリストご自身がひとりの農民でした。キリストは、純朴で詩的なガラヤの農民たちの言葉で話をした。きょうだってイエスは、ソレンチナーメの農民の素朴で詩的な言葉で話しているんです。

銀行の副総裁を連れて来た私たちの友人サムエル。——そうだ、ここの言葉はとても詩的だね。だ

がその言葉が、むしろ後退的と言わざるを得ないような態度をひき起こしているんだろう。もし、われわれが今日、われわれの世界において、経済的な憂慮を廃棄してしまつたとしたら、われわれはまたそれによって、同時に発展をも破棄してしまふことになる。一体、原始社会の人間たちの経済に戻ろうということなのか？ あの時代の人間は、きっと幸せだっただろう。しかし、経済的な配慮、つまり、当然生じて来る名譽心、つまり競争心（僕はむしろこれを企業心と呼びたいんだ）が、発展のために必要なんだよ。

マルセリーノ 何かを建設したいという企業心は、誰かひとりのみのためでなく、一般に役立ちたいというのなら、それは良いことだよ。すべての人が充分に持ち、誰にも何も不足しているようなことが無いように、という野心も良いものだ。そして競争心だって、あんたが俺に与えたんだから、俺だってあんたに与えるという意味においては良いことだ。つまり、俺があんたに食べるものをあげる。あんたは俺に着る物か靴をくれる。そして俺たちのうちの誰もが、何を食べるか、何を着るかなんて心配しないようになるっていう意味でならね。

コロネル・ウルテチョが（サムエルに向かって）。——君は近代的な体制を弁護しているが、しかしそれだって、すでもっと近代的な他の人間たちと較べれば、また後退的だって言い返される態度なんだよ。私がより近代的と言っているのは、福音書と社会主義の経済体制のことだがね。両方とも、資本主義よりは近代的なんだ。大切なことは、原始社会の人間たちの幸せと暢気さを取り戻すことじゃないか。しかし、原始社会の人々がきつと持っていたに違いないその不愉快な事柄を無くして、と

いうことはもちろんだ。この観点から見れば、原始社会の人々は、私たちが誤魔化されているほど、まったく原始的なわけではない。私たちはアルタミラの洞穴の絵画を忘れまい。このこの島にだって、けさ皆が感嘆して見とれたソレンチナーメの原始人たちの絵画がある。総じて言えば、これらすべては、ここ、ソレンチナーメの原始的な貧しい条件下でも、すでに新しい人間を予感させる……

サムエル 私は福音書には反対していない。むしろその逆だ。言わせてもらえば、私は福音書を大変素晴らしいと思っている。ただ、私が恐れているのは、私たちが実際に福音書によって行動すれば、全経済は崩壊する。

パブロ・アントーニオ・クアドラ（サムエルに向かって）。——資本主義者め！

コロネル・ウルテチョ この素晴らしい言葉は、非常に素晴らしい経済をもたらすことになるだろうと思うんだがね。

パブロ・アントーニオが、サムエルとその友人の開発銀行の男に微笑しながら言った。——そうなら、銀行なんてもう存在しなくなるでしょうね……

コロネル・ウルテチョ あなた方だって、私たちとまったく同様に、銀行なんてでっかい羨みみたいなもんだってことは、ご存知なんです。

だから神の御国とその正義とを切に望みなさい。そうすればそれ以外のものも、おのずとあなた方に与えられるであらうから。

オスカル 僕は神の国というのは、僕たちが今、ここに持っている共同体のことだと思ふんだ。そしてそこにいることの喜びと、これ以上、一体、何を望むんだらう？ 僕はここで皆と一緒に居る時は、とても幸せなんだ。僕にとっては、こここそが神の国なんだ。

マルセリーノ 神の国とは愛ということなんだ。それは根本的には正義と同じものだ。俺たちが皆、愛と正義とに基づいた社会を実現しようと苦勞すれば、もう搾取などは無くなり、皆にあり余るほどのものがある。俺たちは、食べるものや着るものを手に入れるだけではなく、学校も病院も診療所も、恥ずかしい程度に住居だって、……人間が必要とするものすべてを手に入れることになるんだ。

マヌエル 僕はそのために、ひとつの例を挙げたいと思ふんです。ここでは田舎にも、素晴らしくきれいな学校を建てることのできるでしょう。しかしながら、誰も学校にやってくる来ない。どうして来ないんだらうか？ 子供たちは両親の仕事を手伝わなければならない、家事の心配をしなければならない、小さな弟妹たちの子守りをしなければならないからです。それに対して、社会的正義というものがある存在すれば、学校はいわば、学校なんて、おのずと雨後の筍のようにできて来るでしょう。なぜなら子供たちは自由になって、勉強することができるようです。言い換えれば、僕たちがこのような社会を熱望すれば、他のすべてのことは、おのずと与えられるものなんです。

フェリペ 神は、空を飛ぶ鳥にもまして、人間たちに必要なものすべてを与えて下さる。神は僕たちに、僕たちが快く暮して行くことができるような、すべてのものを与えてくれる大地を僕たちに下さった。だから、僕たちはこの同胞愛と正義の国を求め、神が僕たちに与えて下さるすべてのものを、

皆で共に利用することができるようにするんだ。

グスターヴォ 人間たちがまず、自分自身の経済的な安定性ばかりを考えているようではなかったら、僕たちはこの国をもう手に入れたも同然なんだが。

ウィリアム 余裕やすべての物質的な事柄は副次的なことなんだ。僕たちがこの愛の国を持つようになれば、すべて他のことはおのずとやって来る。

パブロ・アントーニオ 多くの人が、経済上の開発の問題が解決されれば、社会的正義の問題もおのずと解決されると信じている。しかし、イエスの言葉に従うならば、それはまったく逆なんだ。

私は言った。——また多くの人が、教会においては、社会の構造を変えようとするよりも、まず人間の心を変えなければならないと思っている。だがそれに対してキリストは、最も大切なことは、神の御国とその正義、あるいはまったく同じことだが、正義の国だと言っている。イエスは私たちに、まず宗教的な回心を切に求めよ、そうすればその他のすべてのことは、おのずと手に入るようになる、とは言ってらっしゃらないんだ。つまり、宗教的な回心は、決して搾取の体制を廃棄することはない、というのはひとつの歴史的な事実なんだね。逆に宗教は余りにもしばしば、さらに搾取されるように、貢献してきたんだ。

ラウレアノ 神の国とは正義なんだ。その意味するところは、僕たちが正義より他の何ものをも問題にしないということだ。それが革命なんだ。

コロネル・ウルテチョが言った。——地上における神の国は自明のことなんだ。なぜなら、私たち

は、死の彼方にも生命が、天国があることを忘れてはいけないんだから。もし私たちが、このことを勘定に入れなければ、私たちは先見の明がないということになるだろう。つまり、私たちは十分に広い展望を持っていないということになる。肉の復活の教訓が意味しているのは、この世界における革命には終わりが無いということなんだ。共産主義は死の後までも統いている。

私たちの対話は終わった。アントーニオ・クアドラが、彼の傍らに坐っているコロネル・ウルテチに静かな声で言った。——こんなミサなら、フィデール・カストロだって認めるだろう。……チエ・ゲヴァラだってお気に召すってものだね。